

「なすかしの森 セカンドスクール2022」報告書

実施日：令和4年10月17日（月）～11月18日（金）

【目的・趣旨／概要】

「なすかしの森セカンドスクール」は、参加児童のみならず教師・保護者・教育支援スタッフ・施設職員が学び合う場として、「五者の育ちの場」となるよう、5つの視点の目標を掲げて実施。

【連携先】

・三菱製紙株式会社 エコシステムアカデミー



【参加校・日程】

西郷村立小学校および棚倉町立小学校 合計7校 5年生合計216名

学校名	期間	日程	学級	児童数	教育支援 スタッフ
棚倉町立近津小学校	10月17日（月）～21日（金）	4泊5日	1	18	3
棚倉町立高野小学校	10月17日（月）～21日（金）	4泊5日	1	11	3
棚倉町立社川小学校	10月25日（木）～28日（金）	3泊4日	1	17	3
西郷村立小田倉小学校	10月24日（月）～28日（金）	4泊5日	2	68	5
西郷村立熊倉小学校	11月7日（月）～11日（金）	4泊5日	2	61	6
西郷村立米小学校	11月14日（月）～18日（金）	4泊5日	1	30	4
西郷村立羽太小学校	11月14日（月）～18日（金）	4泊5日	1	11	3



【プログラム概要】

① スクールタイム【教科等に関連付けた体験活動プログラムの実践】

・「沢歩きハイキング（理科：流れる水のはたらき）」

既存プログラムである「沢歩きハイキング」コースの一部を活用して、「流れる水のはたらき」の学習を行った。指導を担当する研修指導員に対して事前打ち合わせを行い、理科の教科としてのねらいに沿った内容を体験学習することができた。実際に自然の中で、流れる水を目の当たりにし、学びを深めることができた。

・「エコシステムアカデミー森のめぐみの体験学習（社会科：私たちの森林と生活）」

連携先である三菱製紙(株)エコシステムアカデミーによる「森のめぐみの学習」を、社会科の教科としてのねらいを達成できる内容に再構成していただき、講義と紙すき体験を合わせた体験学習を行った。理論的な学びと、実際の活用方法としての紙すき作りを通して、学びを深めることができた。

・「野外炊事（家庭科：調理の基礎）」

既存プログラムである「野外炊事」のカレー・焼きそば作りを行った。調理実習の時間として、調理の基礎について学習することができた。

・「焼き板づくり（図画工作：表現・造形遊びをする活動）」

既存プログラムである「焼き板づくり」を通して、造形遊びをする活動を楽しむことができた。

② なすかしの森タイム【長期集団宿泊体験】

・「ナイトハイク」

宿泊体験だからこそできる夜の森を歩く体験を行った。満天の星空を見ることができた学校や、五感を研ぎ澄ませながら暗闇を楽しむ学校など、普段の生活ではできない体験となった。

・「キャンプファイヤー・キャンドルフアイヤー」

火を囲み、楽しい時間を過ごすと共に、プログラム全体を振り返る中で、仲間を感じたり、自分自身の変容などに気付くことができた。

【企画・運営上工夫したこと】

- ・保護者説明会等でコロナ禍における当施設の感染対策を丁寧に説明した。また、教育支援スタッフの条件についても説明したことで学校・保護者の理解をいただいた。また、実施の際は、3密や他団体との交流を避ける配慮をした。
- ・西郷村小学校長会と連携してスクールタイムにおける共通プログラムを実施した。
- ・「沢歩きハイキング」において、研修指導員との事前打ち合わせを行った。1学級に1名の研修指導員を配置して、児童がより聞き取りやすいように取り組んだ。
- ・教育支援スタッフの負担をできるだけ軽減しながら、教育効果が高まるように、支援場面でやるべきことなどを精選した。

【成果】

- ・児童の意識調査として、「基本的な生活習慣」「自己肯定感」「コミュニケーション」について、事前事後の変容を見たが、各項目で上昇が見られた。
- ・教科等に関連付けた体験活動プログラムの検証ができた。また、教科のねらいを踏まえた活動の展開をすることができた。
- ・教育支援スタッフにとっては、教員を目指す気持ちを高めたり、それぞれの教育観・価値観を育み上げる大きなきっかけになった。
- ・学校の教員にとっては、単元学習の中に体験学習をどのように取り入れるかなどのカリキュラムマネジメントの視点を持つきっかけとすることができた。

《参加者の声》

- ・「沢歩きハイキングでは、自然のはたらきや川のはらきについて学ぶことができた。」
- ・「先生がいなくても、みんなで協力し合えた。」
- ・「キャンドルファイヤーが心に残った。」等

【課題と方策】

- ・参加児童への指導の役割分担について、先生方と教育支援スタッフとがねらいをしっかりと共有し、連携・協力するということが課題が残った。
- ・教育支援スタッフや参加児童の体調不良により、途中で退所する対応があった。また、参加校の中には体調不良の児童が多くなってしまい、途中で終了してしまったため、感染症対策をさらに講じる必要がある。
- ・主担当と副担当職員の役割を明確にして事業運営を行ったが、事業開始までに副担当と担当校の先生が打ち合わせを行うことができなかった。そのため、打ち合わせを行うことで、T1・T2としての役割をさらに発揮させることができると思う。

国立那須甲子青少年自然の家 [作成] 企画指導専門職：小豆畑隆則